

2016年（平成28年）

6月3日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 (一財)日本エネルギー経済研究所  
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)  
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階  
ホームページ <http://oil-info.ieej.or.jp>

## ■ 概況

5/19～5/25のNYMEX・WTIIは、カナダの森林火災やドル高などいくつかの要素の影響を受けつつ、48～49ドルと小幅な値動きで推移した。

5月26日は、前日の在庫減少の報道やナイジェリアの石油施設襲撃などの影響で、7ヵ月半振りに50ドルを超え一時50.21ドルを記録したが、その後利食い売りに押され下落した。7月限の終値は、前日比0.08ドル安の49.48ドルとなった。

週末27日は、前日に50ドル超えを記録したことから米国産原油の生産拡大の動きが広がるのではないかの警戒感から続落した。7月限は前日比0.15ドル安の49.33ドルで終了した。

連休明け31日は、2日に予定されたOPEC(石油輸出国機構)の総会で、原油減産につながる決定には悲観的見方が強まり値下がりが続いた。7月限の終値は、前週末比0.23ドル安の49.10ドルと3営業日続落となった。

1日は、中国の経済指標が低調だったことから、小幅に値下がりが続いた。7月限の終値は、前日比0.09ドル安の49.01ドルだった。

アジアの指標原油である中東産バイ原油/東京市場(7月渡し)は、前週も44～46ドルで推移した。26日は46.70ドル、27日は45.90ドル、30日は46.00ドル、31日は46.70ドル、1日は45.50ドルと狭い範囲での値動きが続いた。

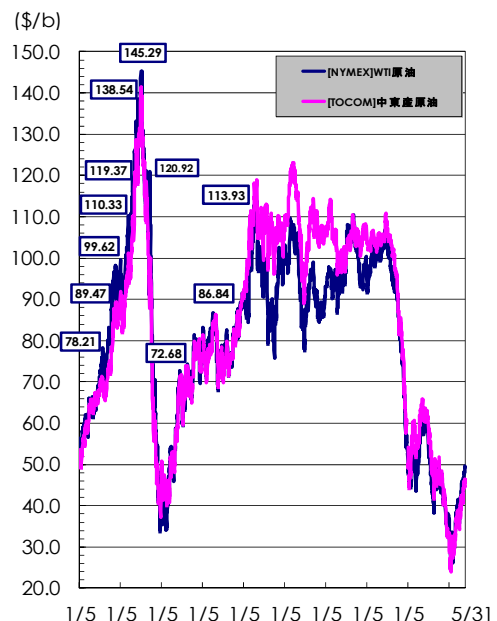
為替は、前週は109～110円台とやや円安で推移した。26日は109.54円、27日は109.79円、30日は110.73円、31日は110.94円、1日は110.63円と前週とほぼ同じ値幅での動きが続いた。

財務省が27日発表した貿易統計速報(旬間ベース)によると、5月上旬の原油輸入平均CIF価格は、27,194円/klとなり、前旬を1,372円上回った。ドル建てでは39.39ドルで前旬比1.80ドル高。為替レートは1ドル/109.75円。

主要元売会社の6月第1週に適用するガソリンと中間留分の卸価格は、据え置きから6.0円の値上げだった。原油は値上がり、為替は円安で、原油コストは小幅に値上がりした。

そのような中で、5月30日時点の小売価格は、ガソリンが0.7円値上がりの119.9円、軽油は0.3円値上がりの100.8円、灯油は0.2円値上がりの62.5円だった。ガソリンは12週連続の値上がり、軽油は3週連続の値上がり、灯油は2週連続の値上がり。この週の原油コストも値上がり、元売りの卸価格も値上がりだった。

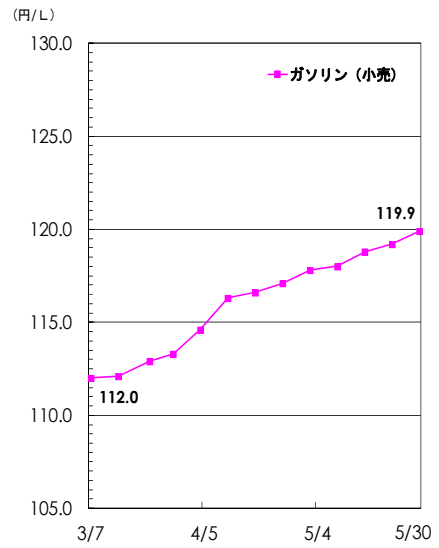
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	5/22 ~ 5/28	3,233 ▼ -125	▲ -
	トッパー稼働率 (%)	"	76.1 ▼ -2.9	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	5/28	14,988 ▲ 523	▲ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/ bbl)	5/30	45.81 ▲ 1.10	▼ -16.9
	WTI原油 (NYMEX) (\$/ bbl)	5/31	49.10 ▲ 1.02	▼ -11.1
	原油CIF単価 (\$/ bbl)	5月上旬	39.39 ▲ 1.80	▼ -19.98
	①原油CIF単価 (¥/ kl)	"	27,194 ▲ 1,372	▼ -17,415
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	109.75 ▼ -0.55	▲ 9.71
	外国為替TTSレート (¥/\$)	5/30	111.73 ▼ -0.91	▲ 13.51



(単位：千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	5/22 ~ 5/28	1,068 ▲ 99	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	1,024 ▲ 121	▲ -	
	輸出	"	49 ▼ -19	▼ -	
	在庫	5/28	1,822 ▼ -4	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	5/24 ~ 5/30	41.3 ▲ 0.9	▼ -20.5	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	5/24 ~ 5/30	46.0 ▲ 1.7	▼ -18.1
		(TOCOM/中部)	5/30	45.0 ▲ 1.8	▼ -20.0
	小売 [週動向] (資工庁公表)	5/30	119.9 ▲ 0.7	▼ -23.0	

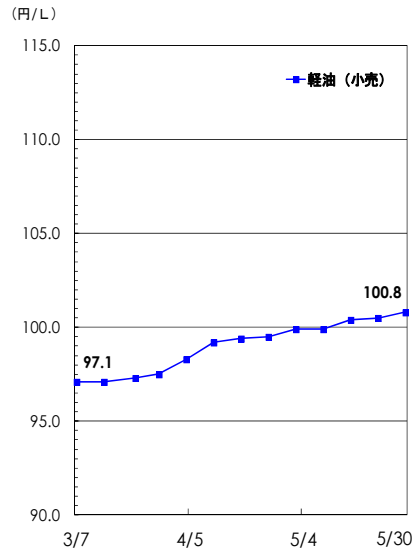
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位：千kl、円/%)

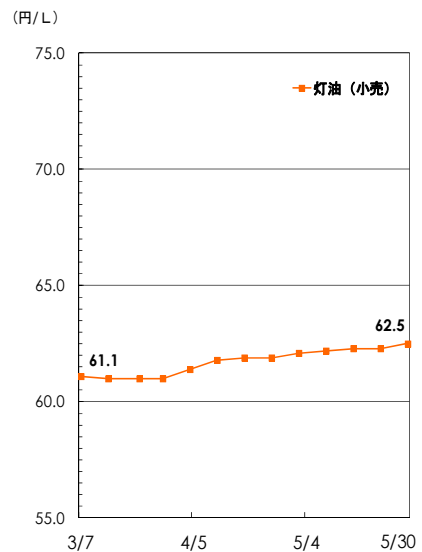
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	5/22 ~ 5/28	775 ▲ 69	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	677 ▼ -16	▲ -	
	輸出	"	194 ▲ 59	▼ -	
	在庫	5/28	1,620 ▼ -96	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	5/24 ~ 5/30	37.3 ▲ 0.8	▼ -18.5	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	5/24 ~ 5/30	40.6 ▲ 1.4	▼ -18.5
		(TOCOM/中部)	5/30	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	5/30	100.8 ▲ 0.3	▼ -20.8	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位：千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	5/22 ~ 5/28	213 ▼ -10	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	110 ▼ -29	▼ -	
	輸出	"	0 → 0	→ -	
	在庫	5/28	1,604 ▲ 103	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	5/24 ~ 5/30	37.4 ▲ 1.3	▼ -20.5	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	5/24 ~ 5/30	40.6 ▲ 2.1	▼ -18.6
		(TOCOM/中部)	5/30	39.5 ▲ 2.0	▼ -19.2
	小売 [週動向] (資工庁公表)	5/30	62.5 ▲ 0.2	▼ -22.7	



■ 関連情報

1 海外/原油

1日のNYMEX市場のWTI原油は、中国経済の先行き懸念から続落した。

EIAの週間石油統計は、連休があったため翌日となったが、この日発表された中国の製造業購買担当者景気指数が低調だったことから相場を圧迫した。しかし、2日に開催されるOPEC総会で、生産協議が進展するのではとの期待も出され、下げ幅は限定的であった。

7月限の終値は、前日比0.09ドル安の1バレル49.01ドル、8月限の終値は、前日比0.04ドル安の1バレル49.49ドルだった。

EIAによると、5月31日時点のガソリンの小売価格は全米平均で前週比3.9セント値上がりの1ガロン2.339ドル(69.0円/ℓ)となった。ディーゼルは2.5セント値上がりの2.382ドル(70.2円/ℓ)。ガソリンは3週連続の値上がり、ディーゼルは8週連続の値上がり。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、5月22日～28日に休止したトッパー能力は、53.6万バレル/日と先週から6.1万バレル/日の増加。(全処理能力は381.7万バレル/日)。

原油処理量は323.3万kl、前週に比べ12.5万kl減少。前年に対しては4.0万klの増加。トッパー稼働率は76.1%と前週に対しては2.9ポイントの減、前年に対しては2.8ポイントの増加となった。

生産は前週に比べてガソリン、軽油が増産となり、その他の油種で減産となった。ガソリン/10.2%増、ジェット/1.6%減、灯油/4.5%減、軽油/9.8%増、A重油/7.2%減、C重油/17.2%減。今週のC重油の輸入は4.3万kl(前週比4.3万kl増)。軽油の輸出は19.4万kl(前週比5.9万kl増)。

出荷(販売量)は、前週比ではガソリンが増加し、その他の油種で減少した。前年比ではガソリン、ジェット、軽油が増加し、その他の油種で減少した。小売価格の値上がりが続く、ガソリン価格は今年2番目の高値レベルとなる中で、ガソリンの出荷は102.4万kl(対前週13.4%増)と2週振りに前週比、前年比で増加となり、4週振りに100万klを超えた。

ジェット9.8万kl(対前週37.1%減)、灯油11.0万kl(対前週21.3%減)、軽油67.7kl(対前週2.2%減)、A重油20.5万kl(対前週9.0%減)、C重油22.9万kl(対前週25.5%減)。

(単位：千L)

	今週 (5/22 ~ 5/28)	前週 (5/15 ~ 5/21)	前週比
ガソリン	1,024	903	▲ 121 (13%)
ジェット燃料	98	156	▼ -58 (-37%)
灯油	110	139	▼ -29 (-21%)
軽油	677	693	▼ -16 (-2%)
A重油	205	225	▼ -20 (-9%)
C重油	229	307	▼ -78 (-25%)
合計	2,343	2,423	▼ -80 (-3%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

5月28日時点の在庫は灯油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対しても灯油のみが積み増し、その他の油種で取り崩しとなった。

ガソリンは182.2万kl、前週差0.4万kl減。前年に対しては5.1万kl少ない。

灯油は160.4万kl、前週差10.3万kl増。前年に対しては20.1万kl多い。

軽油は162.0万kl、前週差9.6万kl減。前年に対しては0.4万kl少ない。

A重油は78.2kl、前週差2.7万kl減。前年に対しては3.6万kl少ない。

C重油は202.0万kl、前週差0.5万kl減。前年に対しては17.8万kl少ない。

(単位：千L)

	今週 (5/28)	前週 (5/21)	前週比
ガソリン	1,822	1,826	▼ -4 (-0%)
ジェット燃料	950	1,152	▼ -202 (-18%)
灯油	1,604	1,501	▲ 103 (7%)
軽油	1,620	1,716	▼ -96 (-6%)
A重油	782	809	▼ -27 (-3%)
C重油	2,020	2,025	▼ -5 (-0%)
合計	8,798	9,029	▼ -231 (-2.6%)

### 3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

5月24日から5月30日までの原油コストは、原油価格は値上がり、為替レートも円安で、小幅な値上がりが見られる。

陸上スポット価格は、ガソリン94~95円台、軽油36~38円台、灯油36~38円台で堅調だった。海上スポット価格は、ガソリン97~101円台、軽油44~45円台、灯油38~41円台、先物価格はガソリン98~100円台、軽油39~41円台、灯油39~41円台で全般的に値上がりした。原油コスト値上がりの影響が製品スポット市場にも波及し、全般的に値上がりした。

EMGマーケティングは2日、4日以降出荷分の陸上外販スポット価格について、ガソリン、軽油は据え置き、灯油は1.0円、重油は0.5円値上げする旨を通知した。

### 3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

製品スポット市況は、原油コストの値上がりの影響を受け、堅調に転じた。週間のガソリン販売量は、4週振りに100万KI台だった。

6月第1週(6月2日~6月8日)適用の元売卸売価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(5月24日~5月30日/千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、ガソリンは0.9円、灯油は1.3円、軽油は0.8円の値上がりだった。東京湾渡しの海上スポット平均価格は、ガソリンが2.3円、灯油は2.8円、軽油は3.5円の値上がり、先物価格は、ガソリンが1.7円、灯油が2.1円、軽油が1.4円の値上がりだった。原油コストは値上がり、スポット製品価格も全般的に堅調だった。

6月第1週の大手元売の卸価格は、据え置きから6.0円の値上がりだった。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

(RIM)		(単位: 円/ℓ)		
[陸上ローリー4地区平均]		今週 (5/24 ~ 5/30)	前週 (5/17 ~ 5/23)	前週比
スポット価格	レギュラー	41.3	40.4	▲ 0.9
	灯油	37.4	36.1	▲ 1.3
	軽油	37.3	36.5	▲ 0.8
(TOCOM)		(単位: 円/ℓ)		
[期近物/終値] [平均]		今週 (5/24 ~ 5/30)	前週 (5/17 ~ 5/23)	前週比
先物価格	レギュラー	46.0	44.3	▲ 1.7
	灯油	40.6	38.5	▲ 2.1
	軽油	40.6	39.2	▲ 1.4

※上記価格は税抜き価格

参考値 (5/24~5/30実績値)		(単位: 円/ℓ)	
油種	現物	先物	平均
ガソリン	▲ 0.9	▲ 1.7	▲ 1.3
灯油	▲ 1.3	▲ 2.1	▲ 1.7
軽油	▲ 0.8	▲ 1.4	▲ 1.1
A重油	▲ 0.4		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

### 4 国内/製品小売価格

5月30日時点におけるSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.7円値上がりの119.9円、軽油は0.3円値上がりの100.8円、灯油は0.2円値上がりの62.5円だった。ガソリンは12週連続の値上がり、軽油は3週連続の値上がり、灯油は2週振りの値上がり。ガソリンは、12週で累計7.9円の値上がり。

都道府県別の動向として、ガソリンの値上がりは40都道府県、横ばい1県、値下がり6道府県だった。沖縄県を除く都道府県別のガソリンの全国最安値は、千葉県(前週比0.7円高)の115.4円で、宮城県(同0.5円安)が116.0円で続いている。

最高値は鹿児島県(同0.5円高)の127.8円だった。都道府

県別で最も値上がりしたのは埼玉県(同2.5円高)で116.8円、最も値下がりしたのは宮城県(同0.5円安)の116.0円だった。

原油コストは小幅に値上がり、卸価格も値上がりだった。製品スポット市況も堅調に推移しており、次週の小売価格も、値上がりが見られる。

(資工庁公表) [週動向]		今週 (5/30)	前週 (5/23)	前週比	直近高値	
小売価格	レギュラー	119.9	119.2	▲ 0.7	08/8/4	185.1
	灯油	62.5	62.3	▲ 0.2	08/8/11	132.1
	軽油	100.8	100.5	▲ 0.3	08/8/4	167.4

(単位: 円/ℓ)

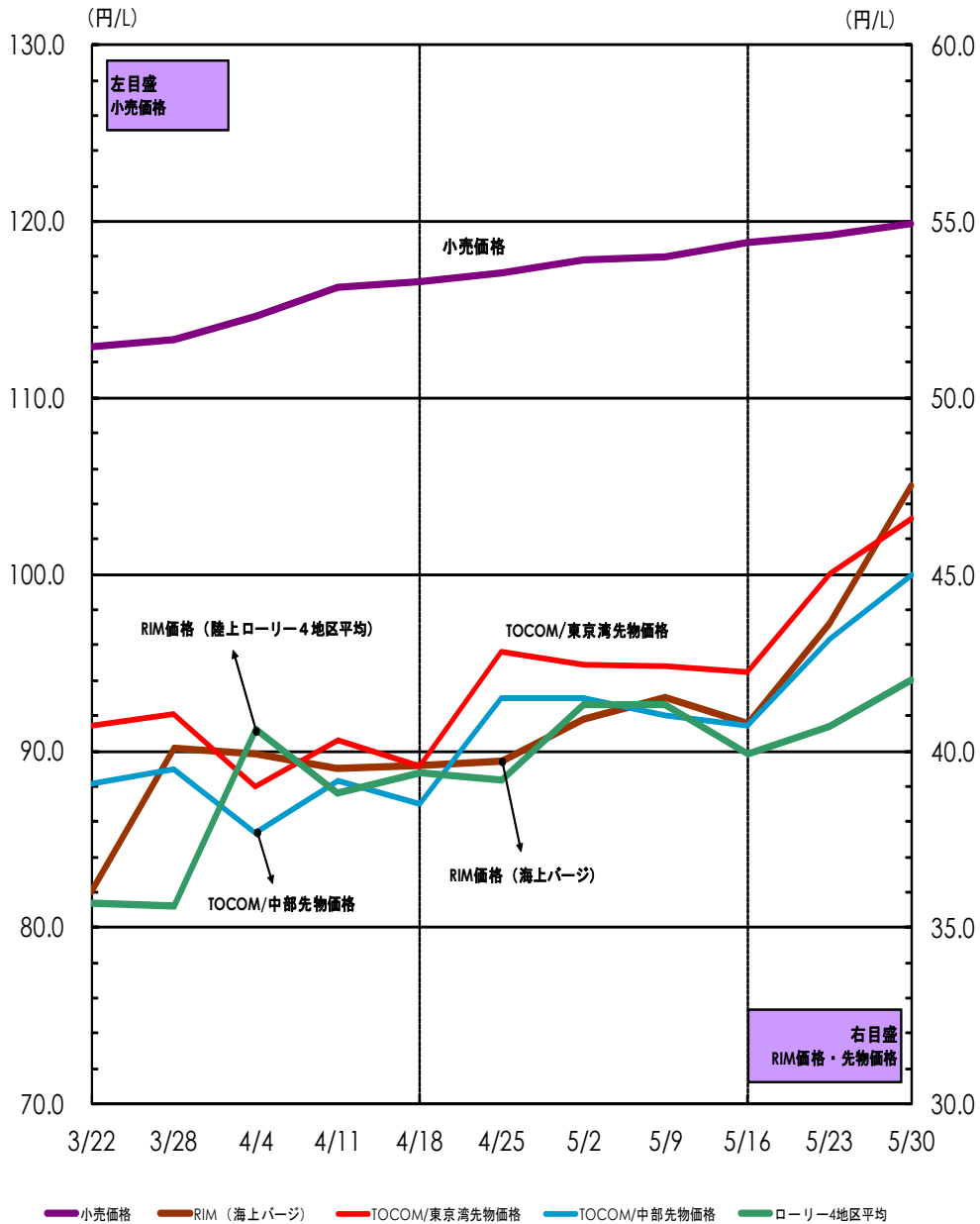
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

# ガソリン価格推移

(2016/3/22 ~ 2016/5/30)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格  
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

## ■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<http://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。  
次回(2016第10号)の公表は、6/10(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成27年9月末現在)は、12月16日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

### 本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。  
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。  
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

### 「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。  
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

### 本レポート掲載データの出所について

#### ①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。  
「出荷」は当センターの推計。

#### ②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。  
中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」  
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM (Telegraphic Transfer Middle rate : 中値)を採用。  
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

#### ③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

#### ④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の東京、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

#### ⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。  
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

#### ⑥【国内製品・小売価格】〈運動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における現金一般価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。